

2011年度(平成23年度)学校評価自己評価表

最終更新日	2011年(平成23年)6月8日
-------	------------------

校番 45	福山市立加茂小学校
-------	-----------

1 学校教育目標

豊かな心を持ち 自ら学び 実践する子ども

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

「KAMO CAN DO IT」をキーワードにした学校づくり
 ○豊かな学びのある学校 ○生き生きと活動している学校
 ○安全で美しい学校 ○家庭や地域と共にある学校

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

21世紀を生きる人づくりのために
「確かな学力」 学力の基礎基本の確実な定着を図り、自ら考え、主体的に判断し、ともに伝え合い行動する
「豊かな心」 自らを律し、他人を思いやり、自然を愛し、伝統文化や社会規範を尊重し、郷土や国を愛するとともに、夢や希望に挑戦する
「健やかな体」 健康、安全への自己管理能力を高め、自らの健康や体力の増進を図る
 信頼される学校づくりを推進し、児童や保護者・地域のニーズに応える特色ある教育を確立する。

3 自校の現状分析

確かな学力	・理科を中心にエネルギー環境教育の取組みが浸透し、90%以上の児童が興味・関心をもつことができた。基礎・基本の学力を定着させるために、話す・聞く力の重視と家庭学習の定着を図る必要がある。
豊かな心	・あいさつ運動の展開により「自分から進んであいさつをすることができた」児童の割合は85%である。また、掃除強化週間の取組みにより、すみずみまでだまって掃除をしようという意識が高まってきている。気持ちのよいあいさつや返事、掃除をすすめる、道徳的実践力の育成を図る必要がある。
健やかな体	・外で元気に遊ぶ児童は97%である。遊びの充実、体力テストの低い項目の改善が課題である。
力量ある教職員	・問題解決型の授業(広島県学びのサイクル)で、ねらい、展開、まとめが一貫した授業への改善と、ICTを効果的に活用した授業により授業力をつける必要がある。
信頼される学校	・保護者や地域の方から一層信頼されるように、全校で統一した指導や迅速で温かい対応など接遇の徹底が必要である。また、児童が地域をほこりに思い、地域を大切にしようとする教育活動を仕組む必要がある。

4 研究主題

(1) 研究主題

論理的思考力を高めるための授業の創造
 ～視聴覚機器(ICT)の活用を通して～

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
市	教育研究支援授業(理科)	2011(平成23)年度～
市	福山市少人数指導推進支援授業	2011(平成23)年度

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
教育研究の充実 授業力の向上	・考える力や豊かに表現する力を育てるために、効果的に視聴覚機器を活用する教育研究を行う。 ・ねらい、展開、まとめが一貫した授業の充実により、児童の学力を高める。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	() 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取り組み ◇成果と取り組みに着目)	() 指標 評価	□評価項目・指標等 ○短期(中期)経営目標の達成状況 ◎改善方策
確かな学力	3	学習基盤を形成する。	★	継続	聞く力、話す力のついた児童を80%以上にする。		▽聞く:児童朝会での校長先生の話聞き取らせる。 (児童の聞き取りメモ5月・7月・10月・12月) ▽話す:「学びのスタイル」の「話し方名人」をもとに学年ごとにレベルを決め、授業の中で取り組ませる。 (教師の見取り1学期・2学期)		
				継続	家庭学習を毎日目標時間できる児童を80%以上にする。 低学年 30分以上 中学年 40分以上 高学年 50分以上		▽「家庭学習定着週間」を年間3回を行い、「家庭学習を目標時間できたかどうか」自己評価をさせる。 (児童の自己評価4月・10月・12月)		
豊かな心	2	勤労観と礼儀正しさを育てる。		継続	気持ちのよいあいさつやへんじのできる児童を80%以上にする。		▽あいさつ強化週間を学期に1回実施し、進んであいさつできる児童を増やす。 (児童の自己評価4月・9月・12月)		
				継続	進んでそうじをし自己有用感をもつ児童を85%以上にする。		▽「そうじのさしすせそ」を意識した掃除指導を計画的に実施(朝会、児童会活動、そうじ強化週間)する。 (児童の自己評価6月・10月・1月)		
健やかな体	3	基礎体力の充実を図る。		継続	外遊びをする児童を95%以上にする。		▽「外遊び強化月間」を学期1回を行い、「外遊びができたかどうか」自己評価させる。 ・体育委員会による外遊びの紹介や学級遊びを仕組む。 ・外遊びができていない児童への取り組みを行う。 (児童の自己評価5月・9月・1月)		
				見直し	食を大切に考える残食率0の児童を50%以上にする。 (食育強化週間)		▽「食育強化週間」を学期1回実施し職員のみふりかえりを行う、 △食育強化週間中に「残食率」を職員や児童に提示し、意識を高める。 (食育強化週間5月・9月・1月)		

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

力量のある教職員	3	教職員の授業力を向上させる。	★	継続	ねらい、展開、まとめが一貫した授業を90%以上にする。		▽ねらい、展開、まとめが一貫した指導案を作成し、自主公開授業を一人2回以上行う。その自主公開授業の参観を2回以上し、相互評価をする。 (4段階アンケートによる相互評価 7月・11月・2月)		
			★	新規	各学級学期に一回以上、ICTを意識的に活用した授業を90%以上にする。		▽ICT を意識的に活用した授業を年3回以上行なう。 (職員アンケート7月・11月・1月)		
市民から信頼される学校	3	保護者、地域と連携する。		新規	地域教材を取り入れ、興味を持つ児童を85%以上にする。		▽「井伏鱒二」についての授業を年間2回行い「興味が高まったかどうか」自己評価をさせる。 (児童アンケート6月・11月)		
				新規	地域の人に進んで係わろうとする職員を90%以上にする。		▽接遇研修を年間3回実施する。 ▽自己点検表のあいさつ・接遇の項目を90%以上にする。 (職員アンケート7月・11月・1月)		